

文部科学省 平成26年度「大学教育再生加速プログラム」

に採択されました



「人間教育の世界的拠点」 の形成を目指して

正解のない時代にあって、大学の授業と実社会を架橋するアクティブ・ラーニング科目の充実と同時に、的確な状況把握とそれに基づいて自らの対応を考える力「自己調整・自己評価力」の養成が求められています。

創価大学では「人間教育の世界的拠点」形成を目指し、社会の平和と繁栄に資する価値創造に向けた学びの促しと、いかなる困難にあっても価値の創造をやめない「創造的人間」の育成を目的に、これまで学生の能動的学習を促す教育方法の普及と環境整備に努めてきました。

これらの人間教育への取り組みにより、創価大学は平成26年度、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択されました。

本事業ではアクティブ・ラーニング導入科目の質的向上により授業外学習時間の増加と理解度の向上を図り、様々な評価指標の開発を通じてアクティブ・ラーニングの学習成果の可視化を促進し、相互評価文化の醸成を進めて参ります。

これまで進めてきた
創造的人材育成がより加速するように、
3つの事業に取り組みます。

学修成果 の把握

●●●
学年進行に応じた学修成果測定を担うアセスメント科目(3つのアセスメント・ゲート)を用意し、教える側と学ぶ側、双方がその科目の目標達成にどの程度貢献できたのかを点検する体制を整える。

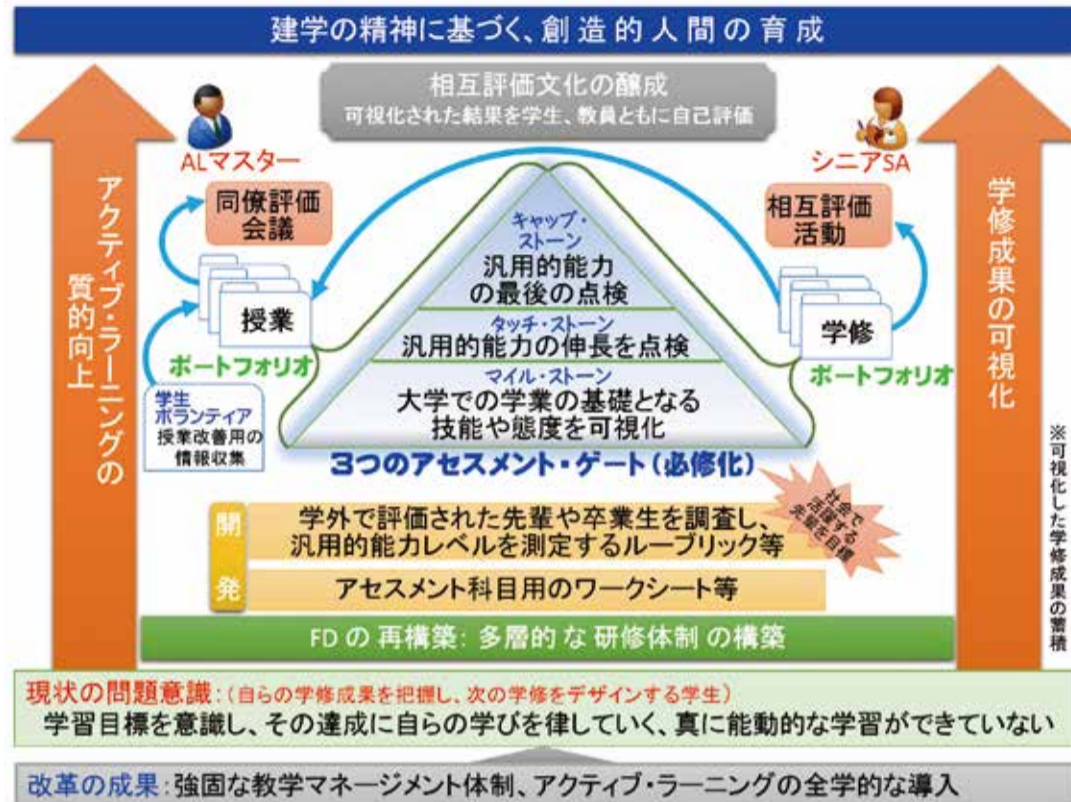
高度な研修 の実施

●●●
本事業では、本学教員を対象に数日間に及ぶ集中的かつ高度な研修を実施し、教育力を高めると同時に研修の内製化を行う。

相互 評価文化 の醸成

●●●
学生同士で学習への取り組みや成果を正しく把握し、互いの成長を促す「学生の相互評価」、同僚間で授業改善計画を練り合う同僚会議、この2つの活動により、相互評価文化の醸成をめざす。

■本事業の取組概要





■事業の成果目標

アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	平成28年度 経営学部100% 平成30年度 全学部100%	学生の授業外学修時間	平成28年度 経営学部 80分/科目 平成30年度 全学部 80分/科目
優れたリーダーシップを持つ学生の養成数	平成28年度 経営学部 55人/1200人 平成30年度 全学部 300人/7600人	アクティブ・ラーニングを行う学部専任教員数	平成28年度 経営学部 19名/19名(100%) 平成30年度 全学部 210名/280名(75%)

経営学部を先導学部とした本事業の全学展開

専門科目クラスター制による高次なアクティブ・ラーニングの展開を準備している経営学部を先導学部として本事業を始めます。経営学部では1年次から学年進行に応じてアクティブ・ラーニング手法が効果的に機能するように授業設計を見直したアセスメント科目を設定し、学修成果の直接的評価を実施します。他の7学部には試行・準備期間を設けて、平成29年度中に全学のカリキュラムを見直し、平成30年度に向け漸進的な全学展開(通信教育部を除く)を行います。

学生のActive Learningを促進させる環境拡充への取り組み

SPACe	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2013年度にグループ学習、語学学習、自習エリア、PCルーム、学習相談、日本語・英語ライティング支援、図書館サービスなど多くの機能を凝縮したSPACeを開所しました。教職員、大学院生、学部学生、留学生スタッフが一体となって支援する体制を構築しました。 	
学生ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年度に導入された「学生ポートフォリオシステム」では、科目ごとの学習記録の保存と振り返りができる学習ポートフォリオ、セメスター単位の目標設定や振り返り一週間の進捗管理を行う学生生活ポートフォリオ、就職活動の記録ができるキャリアポートフォリオが活用できます。 	
e-Learning	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2007年度にe-Learningコンテンツの一つにインターネットやwwwの技術を利用して教育を行うWeb Based Trainingシステム(WBTシステム)が導入されました。WBTシステムでは学生が主体的に該当授業科目の問題演習を行い、その過程で教員と学生がインタラクティブに協調学習を進めています。 	



創価大学

経済学部/経営学部/法学部/文学部/教育学部/理工学部(2015年4月名称変更)/看護学部/国際教養学部
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236 Tel.042-691-7009 <http://ap.soka.ac.jp/>